

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
1	1	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、台所で野菜を煮ようと鍋をガスコンロにかけていたが忘れて寝てしまったため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	うたた寝をしていた女性（80歳代）は、住警器の警報音で目を覚ました。台所に行くと鍋から煙が出ていたので、ガスコンロの火を止めたため火災に至らなかった。 付近を通りかかった女性（30歳代）は、住警器の警報音を聞きつけたので、自分の携帯電話で119番通報した。	非火災
2	1	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（年齢不明）は、台所で煮物をしていたがその場を離れたため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	女性（年齢不明）が、居間にいると、住警器の警報音がしたので台所に戻ると鍋から煙が上がっていた。直ぐガスコンロの火を止めたが、警報音を止めることができなかつたので119番通報した。	非火災
3	1	9 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）は、調理のため鍋をガスコンロにかけ火をつけ、火を止めずに外出したため鍋が空焚き状態となって発煙した。	同建物の男性（60歳代）は、会社から帰宅し3階通路で、火元室から住警器の警報音が聞こえ、窓から焦げ臭い臭いがしたため、自治会事務所に合鍵がないか問合せに行ったが合鍵はなかつた。事務所にいた副会長男性（60歳代）と3階に戻ると住警器の警報音がまだ鳴っているため携帯電話で119番通報した。 また、二人は、隣のベランダから隔板を破壊し、火元室の鍵の掛かっている台所の窓を開放し、室内の台所のガスコンロの火を止めたので火災に至らなかった。	非火災
4	1	7 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、ダイニングで電気ストーブのそばの座椅子で酒を飲んでいたが、そのうちうたた寝をしてしまったため、着衣に電気ストーブのヒーターが接触し着火した。	男性の妻（30歳代）は、住警器の警報音で目を覚ますと、隣のダイニングで夫が「熱い」と言っているのを聞きつけた。直ぐ、ダイニングに行ってみると夫の着衣が燃えていたので水道水を使って消火した後119番通報した。	
5	1	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、台所で煮物をしていたが、その場を離れて部屋で寝ていたため、鍋が過熱され空焚き状態となり発煙した。	男性（70歳代）は、部屋で寝ていたところ、台所の住警器の警報音で目を覚まし、急いで台所に行くと、鍋から煙が出ていたのでガスコンロの火を止めた。しかし、何が鳴っているのか分からないので心配になり119番通報した。	
6	1	9 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、朝食の準備のためフライパンにサラダ油と野菜を入れガスコンロにかけて火を点け、その場を離れて居間でテレビを見ているうちに寝てしまったため、フライパンが過熱され発火した。	男性（男性70歳代）は、居間でテレビを見ているうちに寝てしまったが、ピーピーという住警器の警報音とともにテレビが消えたのでおかしいと思い、台所に行くと、フライパンから煙が上がっていたので、玄関に置いてあった粉末消火器で消火した。 女性（40歳代）は、出火建物前を通りかかったところ、7階の外廊下から煙が見えたので携帯電話で119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
7	1	16 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	石油ストーブに何等かの可燃物が接触し、出火したと思われる。	<p>女性（60歳代）は、台所で調理中に、住警器の「火事です・火事です」という音声警報を聞きつけた。きな臭い臭気をする方を確認すると、石油ストーブから炎が立ち上がり燃えていたので、弟（60歳代）に知らせた。</p> <p>近所に住む女性（70歳代）は、自宅にいると玄関を叩く音があるので、玄関を開けると男性に向かいの家が火事ですと知らされたので、自宅の電話で119番通報した。</p> <p>弟（60歳代）は、洗面器に水を汲み3杯ぐらいかけたが消えなかったため、避難した。</p>	
8	1	22 時頃	住宅用火災警報器	女性（20歳代）が、外出する前にたばこを吸い、たばこの火種が衣類の上に落ちたのに気付かず、外出したため、時間の経過とともに衣類に着火し、更に、付近に置かれていた衣類等に燃え移り出火した。	<p>同建物の男性（20歳代）は、自宅でテレビを見ていたら、住警器の警報音が聞こえたので自宅玄関ドアを開けたところ、2階階段部分の住警器が鳴動しており、火元室の玄関ドアの隙間から白い煙が漂っていたのが見えたので携帯電話で119番通報した。</p> <p>出火時、居住者は外出中であり、消防隊がエンジンカッターでドアを破壊し、内部に進入して消火した。</p>	
9	1	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、ソーセージを解凍するため鍋に入れ、ガスコンロにかけて火を点けたが、そのまま忘れて外出してしまったため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	<p>隣人女性（50歳代）は、家の中にいると、きな臭い臭いがしたので外に出てみると、隣の家から煙が出て住警器が「ピーピー」鳴っていたため、窓をたたいて知らせようとしたが返事がなかった。</p> <p>同じく隣人男性（20歳代）は、出かけようと表に出ると、窓を叩いている人がおり建物から煙が出ていたため、自分の携帯電話で119番通報した。</p> <p>隣人女性は、自宅から金槌を持ってきて、建物西側の窓ガラスを小破壊し、鍵を開け家の中に入り台所のガスコンロの火を止め玄関を開けた。</p> <p>隣人男性は玄関から入り、発見者とともに窓を開放し排煙した。</p>	非火災
10	1	15 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）は、父親の家の台所で煮豆を調理しようと鍋をガスコンロにかけて火を点けたまま、隣家の店舗で作業していたため、鍋が空焚き状態となり発煙した。	<p>男性（90歳代）は、2階にいたところ、階段に設置してある住警器の警報音がしたので、隣家で作業している娘に携帯電話で知らせた。知らせを受けた娘は、父親宅に直ぐ戻り、台所に行くとガスコンロ上の鍋から煙が出ていて煙が充満していたので火を止めたが、住警器の警報音の止め方がわからなかったため119番通報した。</p>	非火災
11	1	0 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、台所で調理しようとして、フライパンをガスコンロにかけ火を点けたまま部屋で寝てしまったため、フライパンが過熱され発煙した。	<p>同建物の男性（30歳代）は、会社からアパートに帰宅し、火元室の前を通りかかると換気扇から煙が出ており、部屋から住警器の「火事です・火事です」という音声警報が鳴っているの聞き、火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。</p> <p>火元室の男性（20歳代）は、薬を服用しており、起こしても起きられない状態であった。消防隊がガスコンロの火を止めた。</p>	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
12	1	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、2階台所でカレーが入った鍋をガスコンロにかけて火を点けたまま外出したため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	女性（30歳代）は3階で就寝中、住警器の警報音で目を覚ますと、部屋が煙で充満していたため、会社にいる夫（30歳代）に電話で知らせた。 妻から知らせを受けた夫は会社から119番通報した。 消防隊がガスコンロの火を止め窓を開放し、煙を排除した。	非火災
13	1	3 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（90歳代）は、おかゆを作ろうと台所で鍋をガスコンロにかけ火を点けたが、前日ガスコンロを掃除した際に誤ってバーナーヘッドを逆さまに取付けたため、ガスコンロの火が異常燃焼し、鍋蓋のつまみに着火した。	女性（90歳代）は、おかゆが出来上がるまで、布団の中で待っていたところ、住警器の警報音がしたので台所に行くと、煙が充満していたのでガスコンロの火を止めてから部屋に戻り119番通報した。	
14	1	3 時頃	住宅用火災警報器	何者かが何らかの火源を用いて新聞受けの新聞紙に放火したものの。	女性（40歳代）は、就寝中住警器の警報音で目を覚まし、寝室の襖を開けると、玄関に煙が充満しているのに気付いた。会社にいる夫に電話すると「窓を開け、警察に電話するように」と言われたので110番に通報した。 通報を受けた警察署員が新聞紙は消えていたが念のためコップ1杯の水をかけた。	
15	1	18 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、台所で煮物をするため、鍋をガスコンロにかけ火をつけた。 その後、玄関の鍵を掛け屋外で友人を待っていたため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	同建物の男性（40歳代）は、自宅にいるときの臭い臭いと警報器の警報音がしたので、部屋の外に出ると階下から煙が上がってきていた。下の階に行き確認すると火元室の台所から煙が出ており、ドアは施錠されていた。直ぐ「火事だ」と叫びドアを叩きながら別室の男性（30歳代）に知らせた。 通報を頼まれた別室の女性（40歳代）は、119番通報した。 男性二人は鍵の掛かっているガラス戸を開けて中に入り、台所のガスコンロの火を止めた。	非火災
16	2	14 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（70歳代）は、台所でカレーを調理中に、ガスコンロの火が自分の着衣に着火した。	同建物の女性（80歳代）は、自宅で食事をしていると住警器の音声警報を聞きつけた。鳴り止まないもので外に出てみると、2階から「ガス・窓を開けてください」という音声警報が聞こえたので、向かい側の事務所に助けを求めに行き、1階で作業をしていた男性（40歳代）にも知らせた。知らせを受けた男性は、2階に上がって火元室の窓から中を覗くと、何かが燃えているのを発見した。ドアが開いていたので中に入ると男性が流し台にうずくまって自分の体に水をかけようとしており、着衣から煙がでていたので蛇口のホースで男性の体に水をかけ火を消した。事務所の社員男性（40歳代）は、携帯電話で119番通報した。	
17	2	15 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、台所で煮物をしていたが、その場を離れて2階にいたため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	自転車で通りかかった女性（40歳代）は、住警器の警報音を聞いたので、建物を見ると、1階の部屋で警報音と同時に焦げた臭いを感じたので携帯電話で119番通報した。発見者の女性に知らされた住民（90歳代）は、台所に戻りガスコンロの火を止めた。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
18	2	14 時頃	住宅用火災警報器	飲食店店主男性（60歳代）は、業務用ガステーブルに天ぷら鍋をかけ、弱火で加熱したまま来客と話しこんでいたため、天ぷら鍋が過熱され発火した。	男性（60歳代）は来客と話していると「火事です・火事です」という音声警報が聞こえたので、天ぷら鍋を加熱していることを思い出して、厨房内を見ると炎が約30cmほど上がっていた。店内にある消火器3本を使って消火した。 隣接マンションの男性（60歳代）は、部屋にいと突然白い煙が窓の外に見え、火事だと思い119番通報した。	
19	2	0 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、台所のガスコンロで鍋にポークビーンズを入れ火を点けたまま、居間で寝てしまったため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	近隣の男性（30歳代）が、ベランダでたばこを吸っていたところ、住警器の警報音に気づき、付近を確認すると、火元室から煙が出ていたので、近くにいた女性（30歳代）の携帯電話で119番通報した。火元室の男性は、消防隊のノックで気づき、ガスコンロの火を止めた。	非火災
20	2	2 時頃	住宅用火災警報器	寝室で使用しているハロゲンヒーターに布団が接触し、時間の経過とともに布団に着火した。	女性（70歳代）は、就寝中の夫（70歳代）の寝室に設置されている住警器の警報音を聞きつけ、夫の寝室に行くとき掛け布団が燃えているのを発見した。直ぐに別室の男性（70歳代）に火災を知らせ、二人で協力して水道から器具洗い用の桶に水を入れ3杯かけ消火した。 別室の男性が、自治会長に火災を知らせ、自治会長が管轄消防署に通報した。 なお、早期発見により、無事避難することができ、夫にけが等はなかった。	
21	2	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、台所のガスコンロに鍋をかけてご飯を炊いていたところ、電話がかかってきたのでその場を離れて電話していたため、鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	同建物の男性（50歳代）は、外出のため家を出て階段を降りていたとき、火元室の玄関から「ピーピー」という警報音がしたため、玄関の呼び鈴をおしたところドアが開き部屋の中から煙がでてきたので119番通報した。女性（90歳代）は、台所に行きガスコンロの火を止めた。	非火災
22	2	18 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、台所で調理中ガスコンロに火を点けたまま外出したため鍋が過熱されて空焚き状態となり発煙した。	通行人男性（30歳代）は、会社の帰り道に火元建物前を通りかかったところ、家の中から住警器の警報音が聞こえ、きな臭いにおいがした。玄関ドアのベルを鳴らしても誰も出てこなかったため119番通報した。	非火災
23	2	15 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）は、ガスコンロで魚を焼いていたが、忘れてそのまま外出したため、過熱され出火した。	近隣の女性（50歳代）は、犬の散歩中に出火建物を通りかかった時に「火事です・火事です」という住警器の音声警報がしたため、建物を見ると1階の窓あたりから煙が見えたので火事だと思い携帯電話で119番通報した。 出火建物の2階には、所有者男性（80歳代）と息子（40歳代）の2名がいたが、息子は耳栓をしており、住警器の音声警報に気が付かなかった。外の消防隊等の騒がしい音で火災に気づきガステーブルの火を消した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
24	2	0 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、漢方薬の煮汁を鍋に入れ温めようとガスこんろに鍋をかけ火を点けた。キッチンタイマーをセットして居間で横になっていたが、寝てしまったため鍋が過熱され空焚き状態になり発煙した。	男性は、住警器の警報音で目を覚まし、台所に行くとも鍋から煙が上がっているのを見てガスの火を止めた。 同建物の男性（50歳代）は、自室で寝ていると「ピーピー」という警報音で目を覚まし、自室から廊下に出たところ、火元室の中から警報音が聞こえ、焦げ臭い臭いがした。ドアをノックしたが応答がなかったので携帯電話で119番通報した。	非火災
25	2	8 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、台所で煮物をしようとガスこんろに鍋をかけ火を点けた。煮物ができるまで、その場を離れて居間でくつろいでいたため鍋が過熱されて空焚き状態になり発煙した。	隣人男性（60歳代）は、自宅から店へ仕事に行く途中に、住警器の警報音を聞きつけ、建物を見ると白煙が漂っていた。火事を知らせようと玄関ドアを叩き開けようとしたが開かず、たまたま、近所に住む女性が合鍵を持ってきたので合鍵でドアを開け中に入った。台所に行くとも鍋から煙が出ていたのでガスこんろの火を止めた後、119番通報した。	非火災
26	2	15 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）は、餃子を焼くためにフライパンに油をしき、ガスこんろに火を点けて、油が温まるまで、その場を離れて台所西側の部屋で手紙を書いていたため、油が過熱され発火した。	女性は、部屋で手紙を書いていたところ「火事です・火事です」という住警器の音声警報を聞きつけ、台所に戻るとフライパンから炎が上がっていたので、直ぐガスこんろの火を止め、自宅の電話で119番通報した。	
27	2	8 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、1階台所で天ぷら鍋を使ってコロケを揚げた後、ガスこんろの火を止め忘れて、2階で出勤の準備をしていたため、油が過熱され発火した。	女性の息子（10歳代）は、1階浴室から出たところ2階から「ピーピー」と住警器の警報音がしたので、台所を覗くと天井まで炎が上がっており、慌てて近くにあったビールジョッキに水を汲み炎が上がっていた天ぷら鍋に水をかけて消火した。その後、母親の携帯電話で119番通報した。	
28	2	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（40歳代）は、煮物をするため鍋をガスこんろにかけ火をつけて、友人を出迎えに屋外にいたため、鍋が空焚き状態になり発煙した。	女性（40歳代）は、屋外にいたところ、自宅内の住警器の警報音を聞きつけた。直ぐ、台所に戻ると炎は出ていなかったが煙が充満していたので、ガスこんろの火を止め、自宅の電話で119番通報した。	非火災
29	2	12 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（30歳代）は、天ぷらを揚げていて、その場を離れたため、鍋が過熱され発煙した。	隣人男性（20歳代）は、向いの家に電気業者が来客したので自宅の玄関を開けたところ、1階から煙が出て「火事です・火事です」との声が聞こえたので妻へ119番通報するよう指示した。男性は、向かいの家へ入ると天ぷら鍋から煙が出ていたので、ガステーブルのコックを閉めたため火災に至らなかった。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
30	2	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、台所で調理中であることを忘れ、外出したため鍋が過熱されて空焚き状態になり発煙した。	同建物の女性（60歳代）は、買い物に出かけようと自宅を出て、廊下を歩いている時、住警器の警報音が聞こえ、玄関扉脇の小窓からも白い煙が出ているのを発見したので付近にいた男性（80歳代）に知らせた。知らせを受けた男性は、火元の部屋に向かうと煙が出ていたので、女性宅の電話で119番通報した。 本人は外出中で消防隊が火元のガスの火を消したので火災に至らなかった。	非火災
31	3	18 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、鍋をガスコンロにかけ火を点けたが急に、トイレに行きたくなったので、火を止めずに、トイレに行ったため、鍋が過熱されて空焚き状態になり発煙した。	居住者男性（70歳代）は、トイレに入っていると住警器の警報音がしたので、台所に行くも鍋から煙が出ていたので、ガスコンロの火を止めたので火災に至らなかったが、住警器の警報音の止め方が、わからなかったので119番通報した。	非火災
32	3	16 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、台所で煮物をしていたが、ガスコンロの火を止めずに近所まで外出してしまったため、鍋が過熱されて空焚き状態になり発煙した。	同建物の女性（30歳代）は、外出先から戻り火元の前を通ったところ、室内からの警報音と換気口から煙が出ているのを発見したので、急いで自宅に入り携帯電話で119番通報するとともに建物管理人にも連絡した。 連絡を受けた管理人男性は合鍵で中に入り、台所のガスコンロの火を止めたので火災に至らなかった。	非火災
33	3	13 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、自分の部屋でパソコンをしながらたばこを吸い、火種がパソコンの傍にあったタオル等に落ちたのに気付かず外出したため、タオルが燃えた。	男性の母親（80歳代）が、帰宅すると、息子の部屋から住警器の警報音が聞こえた。部屋を確認すると、うす煙があり、机の上に黒こげの塊りとパソコンの周りが燃えた跡を発見したので、管轄消防署に通報した。	
34	3	19 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性が、自宅の台所で調理中、その場を離れて寝てしまったため、鍋が空焚き状態になり発煙した。	隣家の女性は、自宅にいたところ住宅用火災警報器の鳴動音を聞いたので、外を確認すると、北側の住宅で住宅用火災警報器が鳴動していると同時に焦げた臭いを感じたので自宅の電話で119番通報した。ガスコンロの火は到着した消防隊が消したので火災に至らなかった。	非火災
35	3	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（20歳代）は、フライパンに水を入れ、コンロにかけ火を最大に点けて使用していて、その場を離れたため、コンロの火がフライパンの底から広がり、目隠し用に置かれた布に接炎し、出火した。	女性は、隣室にいたところ、台所から「ポッ」という音がしたので台所に行くもコンロ脇の目隠し用の布が燃えているのを発見した。と同時に「ピーピー」と住警器から音がした。直ぐ携帯電話で119番するとともに、台所にあったコップで水道の水を2～3杯かけて消火した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
36	3	21 時頃	住宅用火災警報器	テーブルタップに熱帯魚の水槽用ヒーター、エアポンプ、水流ポンプ及び蛍光灯等が、たこ足配線されており、テーブルタップ全体が黒く焦げていることから、テーブルタップに過負荷が掛かり発熱して出火した。	同建物の女性（20歳代）は、自宅の風呂で入浴中に、「ピーピー」と音が聞こえたので風呂から出て、外に出てみると隣室から「火事です・火事です」という声が聞こえたので自宅に戻り携帯電話で119番通報した。 出火した部屋の住人は外出中であり、到着した消防隊が消火した。	
37	3	20 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、台所のグリルで魚を焼いていたが、その場を離れたため、魚が焦げて住警器が作動した。	女性は、部屋にいと台所の住宅用火災警報器の鳴動で気がつき、急いで台所に戻るとグリルから煙が出ていたのでガスの火を消したので火災に至らなかったが、心配になり119番通報した。	非火災
38	3	10 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）は、仕事を終え帰宅した後、オープンレンジで魚を焼きながら、仕事の疲れから居眠りしたため、魚が焦げ発煙した。	隣人女性（30歳代）は、自宅にいと、隣の家の住宅用火災警報器の音を聞いた。なかなか止まらないので自分の携帯電話で119番通報した。 男性（60歳代）は、居眠りしていたら警報音で目が覚めると、部屋に煙が充満していた。直ぐガスの火を消すとともに窓を開けて煙を拡散させた。	非火災
39	3	20 時頃	火災・ガス漏れ複合型・警報器	1階の男性（60歳代）は、布団の中でたばこを吸っているうち寝てしまったため、時間の経過とともに無炎燃焼を継続し、布団に着火した。	2階の男性（40歳代）は、自宅にいとところ、1階からドンドンという音がしているため玄関をあけてみると、煙が室内に入り住宅用火災警報器が鳴り出したので避難した。1階の女性（70歳代）に119番通報を頼み、近隣住民と協力してアパートに設置してある消火器で消火した。	
40	3	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）は、ベランダから戻る際に窓枠に落ちていた簡易ライターに気付かずに窓を閉めた。窓枠が簡易ライターの操作ボタンを押下したためライターが点火し、カーテンに着火したが気付かなかった。	女性は、ダイニングで休んでいる時、住宅用火災警報器の「ピーピー」という音がしたので室内を見回して見ると、ドレッサー裏側に煙と炎が見えたので、台所の洗面器に水を汲み4回～5回かけ消火した後119番通報した。	
41	3	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、電子レンジ専用タッパーの中にスパゲティを入れ、14分間セットし、加熱して外出したが、タッパーの中に水を入れるのを忘れたため、スパゲティが燃え出した。	本人は、電子レンジをセットした後、近所のコインランドリーに出かけ、約10分後に自宅に戻ると住宅用火災警報器が鳴っていた。急いで玄関を開け台所に行くと電子レンジから煙が出ているのを発見した。アパート設置の消火器で消火、さらに、台所の水道水をコップで4～5杯かけた後119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
42	3	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、台所で天ぷらを揚げ、使用した油を捨てようと油凝固剤を入れて火を点けたまま、その場を離れて南側の部屋で洋服等の整理をしていたため、フライパンが熱せられ発火し火災になった。	本人は、洋服の整理をしていたら、台所の方から「ポッ」という音と共に、住宅用火災警報器の警報音と「火事です」という音声聞こえてきたので、台所に行くとガステーブルにのせてあったフライパンからオレンジ色の炎が上がっているのを発見した。台所にあったプラスチック製のボウルに水道水を入れ14杯位かけて消火し、その後119番に通報した。	
43	3	0 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、味噌汁を温めるためガスコンロに鍋をかけ火を点けたまま、その場を離れて別の部屋にいたため、鍋が熱せられ発煙した。	同建物の男性（40歳代）は、自宅にいたところ、近隣の部屋で住警器の音声聞こえたので119番通報した。 火元の女性は、別の部屋にいて住警器の音声を聞いて調理中であることを思い出し、台所に行きガスの元栓を閉めた。 消防隊到着時、室内には煙が漂っており窓を開放して煙を排出した。	非火災
44	3	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（80歳代）は、片手鍋で味噌汁を作っていたが、その場を離れていたため、鍋が空焚き状態になり発煙した。	隣人男性（50歳代）は、1階リビングでテレビを見ていたら南側の家から「火事です」というメッセージとともに警報音が鳴り、換気扇から煙が出ていたので火事だと思った。直ぐ、隣家の玄関に廻りインターホンを押したが応答がなかったため自宅に戻り119番通報した。 本人は別の部屋にいたら、警報音が鳴り、味噌汁を作っていたのを思い出し台所に戻りガスの火を止めた。	非火災
45	3	21 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）は、ガステーブルで天ぷら油を温めている時、その場を離れて隣室にいたため、油が熱せられ発火し火災になった。	女性は、隣室にいたところ、住宅用火災警報器の「ピーピー」という音で台所に戻ったらガス台付近から炎が上がっていたのを発見した。直ぐ、シーツを濡らせて炎を消そうとしたが、炎に煽られ消火できなかった。次に、自宅に設置していたスプレー式簡易消火具で消火したが炎が強く消火できなかったので119番通報した。	
46	3	20 時頃	複合型住宅用火災警報器	男性（70歳代）は1階台所でカレーを温めようと鍋に火をつけたが、その場を離れ2階居室にいたところ、カレーが焦げて煙が充満した。	隣人が警報器のブザー音を聞き119番通報した。火元の男性は2階居室にいたところ、突然1階警報器のブザーが鳴り響いたため、1階台所に行くとカレーが焦げ煙が充満していたので、ガス栓を止め勝手口の窓を開けたので火災に至らなかった。	非火災
47	3	18 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、仏壇にロウソクと線香をあげたあと、散歩に出かけたため、火源が何らかの可燃物に接触し、火災になった。	火元上階の女性（50歳代）は、自室にいたところ、「ピーピーピー」という警報音に気づき、ベランダに出ると下の階から煙が上がってきたので、自治会長に知らせた。自治会長の男性は合鍵で火元のドアを開けると内部から黒煙が噴出してきたので119番通報した。初期消火なし。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
48	4	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）はガステーブルのグリルで茄子を焼くつもりで、誤ってコンロ部の点火スイッチを押した状態でゴミ出しに行った為、ガステーブルに掛けてあった天ぷら鍋の油が発火し、鍋の上方に掛けてあった布巾が燃えた。	同じ建物1階の女性（70歳代）は、屋外で住警器のベル音に気付き上を見ると3階から煙が出ているのを発見した。通行人女性（70歳代）は火災発見者から通報依頼を受け自分の携帯で119番通報した。火災を発見した女性は3階に設置されていた粉末消火器を持って行き煙が出ていた換気口に噴射した。火元の女性は自宅に戻り調理用ボールで3杯の水をかけた。	
49	4	22 時頃	住宅用火災警報器	台所で調理中、飲酒し寝てしまったため鍋が過熱し住警器が鳴動したものの。	男性（30歳代）は外出から帰宅すると1階の階段室付近で、きなくさい臭いと住警器の警報音がしていた。2階に上がると2階の部屋から警報音ときなくさい臭いがしたので、自分の携帯電話で119番通報した。消防隊到着時、警報音が鳴動中であり、鍋が過熱状態であった。	非火災
50	4	18 時頃	火災・ガス漏れ複合型住宅用火災警報器	主婦（40歳代）は、中華鍋にサラダ油を入れてガステーブルにかけ点火したまま、その場を離れたため、時間の経過とともにサラダ油が過熱され火災になった。	主婦は、自宅玄関前で隣人と立ち話をしていたとき、自宅内から「ピーピー」と警報音がしたので玄関を開けたところ、黒煙が流れてきたので、台所へ行くとガステーブル上に炎を発見したので、流しの布巾を水道水で濡らし、燃えている付近に掛けて消火した。近隣の男性（40歳代）は、出火建物の主婦から自宅で火災があったことの相談を受け、消防署に通報した。	
51	4	7 時頃	住宅用火災警報器	主婦（50歳代）が、台所のガステーブルで揚げ物をした後、ガステーブルの火を消し忘れて、パートに出かけた為、時間の経過とともに、てんぷら油が過熱され発火した。	息子（10歳代）は、洗面所で歯磨きをしていると、居室の住宅用火災警報器が鳴ったので部屋に行くと、隣の台所のガステーブルにかけた鍋が燃えているのを発見した。息子から火事の知らせを聞いた姉（10歳代）は、自分の携帯で110番通報した。火災を発見した息子は、ガステーブルのコンロのスイッチを切り、ラーメンどんぶりに水道水を汲み、てんぷら鍋に水をかけ消火した。	
52	4	12 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）が1階台所のグリルで魚を焼いているのを忘れて2階へ上がってしまった、時間経過とともに魚が燃えだし煙が出た。	通行人は、住宅の前を通りかかったところ、家の中から住警器の音が聞こえたので、玄関のベルを鳴らすと同時に119番通報した。火元の女性は、ベル音で気が付きガスを消したので火災に至らなかった。	非火災
53	4	1 時頃	住宅用火災警報器	台所のガステーブルで、ゆで卵を調理していたのを忘れて、寝込んでしまい、時間経過とともに水分が蒸発し卵が過熱され発煙した。	本人は、ゆで卵を作っていたことを忘れ、寝込んでしまったが、住宅用火災警報器の音で気付き、ガス栓を止め、窓を開放したため火災に至らなかったもの。	非火災
54	4	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、2階台所のガスコンロに鍋をかけたまま出かけたため、鍋が空焚き状態になり台所に設置した住宅用火災警報器が鳴動したものの。	隣人女性（30歳代）及び隣人の工場勤務の男性（60歳代）は電子音を聞きつけて、異常に気付き119番通報した。到着した消防隊がガスコンロの火を消したので、火災に至らなかった。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
55	4	18 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、鍋をコンロにかけたまま買い物に出かけたため、鍋が空焚き状態になり台所に設置した住宅用火災警報器が鳴動したものの。	隣人女性（70歳代）は「ピーピー」という住警器の鳴動音に気づき119番通報した。火元の女性が、帰宅しコンロの火を止めたので火災に至らなかった。	非火災
56	4	16 時頃	住宅用火災警報器	女性は、味噌汁の鍋をコンロにかけたまま外出したため、鍋が空焚き状態になり台所に設置した住宅用火災警報器が鳴動したものの。	隣人男性は、焦げた臭いと「ピーピー」という住警器の鳴動音に気づき隣室を見ると浴室換気口から煙が出ているのを発見した。主婦は買い物で階段を降りる途中煙の発見者から依頼を受け119番通報した。火元の女性は、消防隊到着と同時に帰宅しコンロの火を止めたので火災に至らなかった。	非火災
57	4	7 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、鍋に米と水を入れ炊飯中、他の作業をしていたところ、ご飯が焦げ住警器が鳴動したものの。	女性は、住警器の警報音を聞き台所に行くと炊飯中のご飯が焦げていたので、ガスコンロの火を消し火災に至らなかった。その後119番通報した。	非火災
58	4	13 時頃	住宅用火災警報器	台所のガステーブル上で調理中であることを忘れて、外出したため煮物が焦げて発煙した。	隣人男性（50歳代）は、自室にいる時、ベル音を聞き廊下に出ると、隣室のトイレから煙が出ているのを発見し119番通報した。消防隊がガスを止めたので火災に至らなかった。	非火災
59	4	9 時頃	住宅用火災警報器	コンセント付き筆筒の電気コードが手より接続されており接続部の過熱により筆筒に着火し火災になった。	女性（70歳代）は、2階洗面所にいたところ階段に設置した住警器が鳴ったので2階居間に行ってみると壁と筆筒の間から炎と白煙を発見し、自分の携帯で119通報した。息子（40歳代）と父親（70歳代）で2階浴室の水を汲みポリバケツで4、5杯かけて消火し、被害を最小限に止めた。	
60	4	22 時頃	住宅用火災警報器	スイッチが入ったままの電気ストーブが何らかの原因で転倒し、出火した。	火元直上階に住む女性（40歳代）は、帰宅途上同棟の外階段で警報音を聞き1階を見ると、部屋の玄関脇の換気口から噴出する白煙を発見し、火事だと思い携帯電話で119番通報した。近隣に住む男性（20歳代）も警報音を聞き駆けつけたが火元のドアが施錠されていたため庭先に回り、窓から部屋に入ると白煙が充満しており、倒れていた電気ストーブの周辺に火炎を確認したので燃えているところを靴で踏み消し、被害を最小限に止めた。	
61	4	13 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）は、台所でガスコンロに火をつけ、うどんを温めていたところ、具合が悪くなり倒れ、コンロの火が放置され鍋が焼損したものの。	隣棟の女性（40歳代）は自宅で火災警報器の音を聞き外に出ると、隣の号棟から煙が出ているので行ってみると2階玄関扉の郵便受けから煙が出ているのを発見し、携帯電話で119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
62	4	22 時頃	住宅用火災警報器	台所で調理中、その場を離れ別の部屋にいたため台所の状況に気付かず調理物が焦げ発煙した。	隣人男性（20歳代）は自室にいたところ、警報器の音に気付きドアを開けると焦げた臭いがしたので自分の携帯で119通報した。調理をしていた人は、消防隊到着まで気付かなかった。	非火災
63	4	20 時頃	住宅用火災警報器	台所でスパゲティを作るため鍋に油をひき火を点けた後、その場を離れベランダで洗濯物を干していたため鍋が焦げ発煙した。	女性（40歳代）はベランダで洗濯物を干しているとき、住宅用火災警報器の警報音に気づき台所に戻ると焦げ臭い煙が出ていたのでコンロの火を消したため火災に至らなかったが、警報音の止め方が分からないので119番した。	非火災
64	4	18 時頃	住宅用火災警報器・住宅用消火器	男性（40歳代）はインスタントラーメンを調理するため、水の入った鍋をガステーブルに掛け、火をつけたままトイレに入ったところ、ガステーブル上に置かれていた調理器具類に炎が接して火災になった。	火元建物1階に住む女性（30歳代）は、夕食の準備中、非常ベルの音に気付き外に出ると5階から煙が出ているのを発見し119通報した。隣人の男性（60歳代）が粉末消火器2本で消火した。	
65	4	10 時頃	住宅用火災警報器	女性は、2階の台所で天ぷら料理を終え、ガステーブル上の鍋に油凝固剤を入れ、1階に降りた。ガスcockを閉め忘れたため油が焦げて発煙した。	女性は、1階で洗濯物を整理していると、2階の住宅用火災警報器が鳴動したので行ってみると煙が充満していたので携帯電話で119番通報した。ガステーブルの自動消火機能が作動し消火された。	非火災
66	4	2 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、煮物をするためガステーブル上の鍋に火をかけ、その場を離れたため、煮物が焦げて発煙した。	女性は、他の部屋で探し物をしていると、「ピーピー」と住宅用火災警報器が鳴ったので台所へ行くと煙が出ていたのでガスを消し、火災に至らなかった。その後、消防署へ通報した。	非火災
67	4	16 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、竹の子の、あく抜きのため鍋に火をかけたまま別室でテレビを見ていたところ、筍が焦げて発煙した。	女性は、テレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の「火事です、火事です」を聞き台所へ行くと鍋が焦げ煙が出ていたのでガスコンロの火を止め、119番通報した。	非火災
68	4	8 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、味噌汁を温めようとガステーブルに火をかけ、その場を離れたため、鍋が焦げつき発煙した。	男性は、台所の住宅用火災警報器が鳴動したので台所へ行くと煙が出ていたためガステーブルの火を消したが住警器の鳴動が停止しないため119番通報した。	非火災
69	4	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、昨日作った筍の煮物を温めるためガステーブルに鍋をのせ点火したまま外出したため、鍋が焦げ発煙した。	隣棟の男性（40歳代）は、歩行中「ピーピー」という警報音を聞き、音のする方を見ると2階の窓の隙間から白煙が見えた。階段を上り玄関ドアを叩いたが応答がないので携帯電話で119番に通報した。住宅公社の人が合鍵でドアを開け、消防隊がガス栓を止めた。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
70	4	2 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、カップラーメンを食べるため、水の入った鍋をガスコンロにかけ、火をつけたまま寝込んでしまったため蒸気が上がった。	隣人男性（20歳代）は、住宅用火災警報器の鳴動に気づき、玄関ドアを叩き本人に知らせた後、携帯電話で110通報した。	非火災
71	5	14 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、味噌汁が入った片手鍋をガスコンロにかけたまま外出したため、鍋が過熱し煙が出て住宅用火災警報器が鳴動した。	隣家の男性（60歳代）は、自宅2階に上がったところ、隣から「ピーピー・火事です、火事です」が聞こえたので隣家を見ると、1階から白煙が出ていたので自分の携帯電話で119番通報した。	非火災
72	5	2 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、台所の1口コンロに鍋をかけた鳥肉と大根を煮込んでいたところ、電話がかかってきたので居間にある携帯電話で話しているうちに、鍋が焦げ発煙したもの。	男性は、電話がかかってきたので居間にある携帯電話で話しているうちに、台所から「パチパチ」という音が聞こえたので居間の戸を開けると、台所の天井に薄く煙が漂っていた。慌ててガスコンロの栓を止めた後、住警器が「火事です、火事です」と鳴動したので携帯電話で119番通報した。	非火災
73	5	13 時頃	住宅用火災警報器	屋上で溜まった雨水が電設金属配管に入り込み、電気配線部分に水が浸透し、漏電により火災となった。	出火建物3階に住む男性（50歳代）が、自室から廊下に出たところ、何か燃やしたような臭いがした。どこから臭いがしているのか探していると、2つ隣の部屋からピッピッという小鳥の鳴くような音がしたので近くへ行くとドアの隙間から煙が出ているのを発見した。「小鳥の鳴くような音は火災報知器の音ですよ。」と近所の人に言われたので、火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。	
74	5	8 時頃	火災ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）は、昨日使用した天ぷら油を廃棄するため、天ぷら油に凝固剤を入れ、フライパンをガステーブル上に置き点火しトイレに行ったため、天ぷら油が過熱し発火した。	女性は、トイレにいと住宅用火災警報器（ガス漏れ複合型）のブザーが鳴動したので台所に行くと炎と煙が出ているのを発見した。自宅の電話で119番通報した。台所に置いてある防災タオルでフライパンを覆いかぶせ、ガステーブルの点火スイッチを元に戻し消火した。	
75	5	22 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、台所のトースターでパンを焼いていたが、その場を離れていたため、パンが焦げ煙が出た。	男性は、台所のトースターでパンを焼いていたが、その場を離れたところ、パンが焦げ煙が発生し住警器が鳴動したためスイッチを切り、火災には至らなかったが、心配になり携帯電話で119番通報した。	非火災
76	5	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、フライパンに残ったサラダ油を固めるテンプレを使用するためガステーブルを点火し、別の部屋で夫と話をしていたため、サラダ油が過熱し発火した。	夫（20歳代）は、妻と話していると、台所で住宅用火災警報器が鳴りだしたので、台所を見るとガステーブルにかけていたフライパンから炎が30cm位上がっているのを発見した、部屋に置いてあったタオルケットをフライパンに被せ廊下に持ち出して消火した後、妻が携帯電話で119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
77	5	3 時頃	住宅用火災警報器	男性(30歳代)は、ガスコンロで調理中、飲酒し寝込んでしまい、調理物が焦げたため発煙した。	隣人の息子が住警器の警報音に気づき母親を起こした、父親が自宅の玄関を開けると2軒隣の部屋の換気扇から煙が出ているのを発見したので妻が自宅の電話で119番通報した。熟睡していた火元の男性は、到着した消防隊が玄関ドアとベランダの窓を叩く音で目を覚まし、煙が出ていたガスコンロのガス栓を止め、ドアと窓を開けたので火災に至らなかった。	非火災
78	5	8 時頃	住宅用火災警報器	電気ストーブが何らかの原因で積み上がった新聞紙に倒れ掛かって出火したものの。	女性(60歳代)は、自宅1階で寝ていると、住警器が鳴動していたため、起きて確認したところ積み上がった新聞紙から煙が出ているのを発見したので持っていた杖で叩いて消火した。2日後に両親宅を訪れた長女が父親の具合が悪いため救急要請した時、救急隊長に火事のことを相談したものの。	
79	5	13 時頃	住宅用火災警報器	主婦は、コンロのグリルで魚を焼いていたことを忘れて、子供と公園に行ってしまったため魚が焦げ発煙したものの。	隣家に住む主婦が住警器の警報音に気づき119番通報した。消防隊がグリルのスイッチを切り、火災に至らなかった	非火災
80	5	0 時頃	住宅用火災警報器	女性(70歳代)は、カレーを調理中、その場を離れたため、鍋から発煙したものの。	隣人が住宅用火災警報器の鳴動音に気づき119番通報した。	非火災
81	5	10 時頃	住宅用火災警報器	女性(80歳代)は、台所で鍋の焦げを取るため水を入れてガスコンロに火をかけたまま、居間で寝込んでしまった。	女性は、居間で寝ていると、住宅用火災警報器の鳴動で目を覚まし、鍋のことを思い出して台所へ行き、ガスコンロのスイッチを切り、鍋に水道水をいれた後、119通報した。	非火災
82	5	23 時頃	住宅用火災警報器	男性(20歳代)は、ベッド上で無意識に放火した。	隣家の女性(20歳代)は、自室の掃除をしていると、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、外に出て窓越しに隣家の内部を見ると煙が出ているのを発見したので自宅の電話で119番通報した。	
83	5	2 時頃	住宅用火災警報器	天井に取り付けてある脱臭除菌装置(マイナスイオン・オゾン発生器)の電線が短絡し、装置ごと布団の上に落下し火災になった。	女性(60歳代)は、就寝中に住警器の警報音と煙たさで目を覚まし、部屋を確認すると脱臭除菌装置(マイナスイオン・オゾン発生器)が布団の上に落下し燃えているのを発見した。	
84	6	0 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性(40歳代)は、台所でスープの入った鍋をガスコンロにかけたまま居眠りしたため、鍋が空焚き状態となった。	隣人男性は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき廊下に出たところ煙と臭気があったので110通報した。	
85	6	12 時頃	住宅用火災警報器	男性(60歳代)は、ガステーブルのグリルで魚を焼いていたのを忘れて、テレビを見ながら食事をしていたため、魚が焦げて火事になった。	男性は、テレビを見ながら食事をしていると、住宅用火災警報器が鳴動したので、台所を見るとガステーブルから白煙と炎が見えた。ガステーブルのスイッチを切ったが炎が収まらず心配になり119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成21年中〕

No.	月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
86	6	20 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性が台所のガステーブルのグリルで魚を焼いていて、その場を離れ居間にいたため、魚が燃えてグリルの排気口から火が出た。	女性は、居間にいると住警器の警報音が鳴ったので台所に行くときグリルの排気口から火が出ているのを発見し、119番通報した。知らせを聞いた息子は、近くにあった粉末消火器で消火した。この時、息子は消火薬剤を吸い込み病院へ搬送された。（軽症）	非火災
87	6	14 時頃	住宅用火災警報器	女性(40歳代)は、金属製の食器洗い用ボールにタオルと水を入れガステーブルにかけて煮沸消毒していたが、火を消し忘れて外出したため、水が蒸発し、火災になった。	女性(50歳代)は、帰宅途中に隣の玄関前を通ると、焦げ臭く郵便受けから煙が出ていて、室内から住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので火事だと思い、自宅の電話で119番通報した。	
88	6	18 時頃	住宅用火災警報器	女性(50歳代)が外出中に、日光がパソコン台に置いてあった虫眼鏡(凸レンズ)により掛け軸に収斂(しゅうれん)したため、掛け軸から出火した。	隣の男性(30歳代)は、留守で施錠された玄関扉の前で「ピーピー」という音が鳴っており、火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。	
89	6	18 時頃	住宅用火災警報器	女性(40歳代)は、味噌汁を温めるためガスレンジのコンロに鍋をかけ点火したが、消し忘れて外出したため鍋が空焚き状態になり発煙した。	隣家の女性(70歳代)は、付近に警報音が鳴り響いていたので周囲を確認したところ、鳴っている家が確認できた。家は留守であることから周囲に集まってきた女性(30歳代)の携帯を借り119番通報した。到着した消防隊がコンロの火を消し、火災には至らなかった。	非火災
90	6	7 時頃	住宅用火災警報器	女性(80歳代)は、火災発見時にテレビから煙が出ているのを確認していることから何らかの原因でテレビから出火した。	女性は、寝室にあるテレビを見ようとスイッチを入れたところ「プチッ」という変な音がしたので電源を切り、居間にあるもう一台のテレビを見ていたところ寝室の住警器が鳴ったので行ってみると消したはずのテレビの後ろ側から煙と炎が見えた。布で消そうとしたが消えなかったため玄関から外に出て「火事だー」と叫んだ。同じ階に住む男性(30歳代)は「火事だー」の声を聞き玄関から出ると近所の家の玄関から白煙が出ていたので、自宅の電話で119番通報した後、廊下にあった粉末消火器でテレビの付近を消火したが、カテンに炎が残った。	
91	6	14 時頃	住宅用火災警報器	住宅の2階寝室でアロマキャンドルが入ったガラスが、アロマキャンドルの熱で割れ床に落下し、床に置いてあった衣類に着火し火災になった。	女性(40歳代)は、自宅1階で新聞を読んでいると、2階からピーピーと警報音が鳴っているのが聞こえた。警報音の鳴っていると思われる2階寝室に入ると、部屋全体が煙で充満しており、寝室の壁から火が出ているのを発見した。南側の窓を開けると、外で水道工事をしていた人が声を掛けてきたので「火事です」と言うと、家の中に入り、2階の風呂場からバケツに水を入れ、寝室の壁と床に水を掛けて消火し被害を最小限にとどめた。火が消えた後、保険会社に電話すると消防署に連絡して、り災証明を貰うように言われたので、消防署へ通報した。	